

松本市広報R7-11

●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153

●編集 公民館報編集委員会

●印刷 株式会社プラルト

公民館報

発行

2026

1/30

まつもと

シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 77

願いを結ぶ

やわらかな光の中で
希望に満ちた新しい年が始まる

(撮影 2026.1.1 四柱神社)



冷たい雨の中、テントで真剣に作戦会議

この避難所訓練は、被災地外から支援と居住空間を持ち込み設置運営する、「イタリア式避難所運営システム」という新しい支援の形態です。災害発生後、トイレやシャワー、温かい食事、安心して休める場所を数日で整備し、被災者が安心して過ごせる場所をつくりまします。

「信州型」では、地域の環境に合わせ、医療や福祉の専門スタッフが加わり広く対応を整え、被災者がより安心できる支援の形が提案されました。

信州大学松本キャンパスで、令和7年12月13・14日に「信州型避難所システム」の実働訓練を実施

信州から発信「あたらしい被災者支援」 被災者二人一人を尊重する避難所づくり

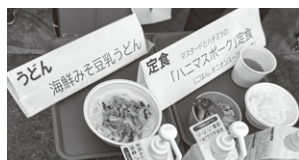


組立式のドーム型シェルターとDMAT（災害派遣医療チーム）本部

松本キャンパスの実働訓練

12日に最大震度7の大地震が起きたとの想定を受けて、13日、伊那市備蓄拠点（仮想）から資材が松本キャンパスへ運ばれ、ドーム型シェルターや食堂本部テント、トイレ・シャワー室などの支援拠点が設置されました。

翌14日、冷たい雨の朝に参加者集合、役割ごとに作戦会議を行い運営の手順を確認しました。



温かな選べるメニュー

訓練参加者の感想や意見を参考に、より安心できる避難所づくりの取り組みが続きます。

広い芝の中央広場

松本キャンパス中央広場は、学生や地域住民も加わり芝植えを行い育ててきた場所です。広大な敷地を活かした実践的な訓練が展開されました。隣には医学部附属病院があり、医療支援の安心を得られます。災害発生から3日後を想定したこの広場には、温かな食事やシャワーなど「希望の光」が感じられ、生きる意欲をもたらしまします。



信大キャンパスの芝の中央広場が会場

わがまち自慢 元原町会の防災初動訓練 安原地区 元原町会の「避難所開設リーフレット」

12月14日午前9時半、安原地区・元原町会は、信州大学教育学部附属松本小学校の体育館を会場に、避難所開設初動訓練を実施しました。

訓練は、町会が作成した「避難所開設初動リーフレット」により行われました。

防災を語りつくして

「毎月2時間、10時から昼まで、防災の課題を出すだけのワークシヨップ。これを3年間やりました」元原町会長の野村さんから、昨年お聞きした印象深い言葉です。ようやく二つ折りのリーフレットが完成し、今年は第2版として更新されました。

1面には一時避難場所16か所を示した地図。見開き2・3面に避難所開設の手順を7つのステップに分類し、1の「附属小体育館に集合」から



元原町会の炊飯班はポリ袋調理



信大会場食堂で温かい食事に感激!

12時前に、町会長の指示のもと参加者は信大キャンパス会場へ移動し、避難者として食事支援訓練に合流しました。

松本キャンパス訓練に合流

昨年の訓練に引き続き、信大の廣内研究室や地域防災減災センターの指導・助言を受けながら、女性専用スペースや子ども支援コーナーなどを設置。情報掲示板や伝言板が設けられ、災害時の現場に近い緊張感が体験できました。

トで、海鮮うどんかお肉の定食を選ぶと、係の方が席まで運んでくれました。

訓練後の反省会では、実施内容の意見を交わしながら、次の防災活動につなげます。

「避難所開設初動リーフレット」はこちらから



未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い

第41回松本市公民館研究集会 令和7年度松本市地域づくり市民活動研究集会

◇期日 **2月15日(日)** ◇会場 **松本市中央公民館(Mウイング)ほか**

日 程	9:00 受付	9:30~9:45 開会式	9:45~11:50 基調講演	11:50~13:00 昼食	13:00~16:30 分科会
-----	------------	------------------	--------------------	-------------------	--------------------

内 容

■基調講演

ばらばら だけど ひとつに
「多様性 × 協働 = 新しい価値」

講師

長野大学 社会福祉学部 教授
はやさか じゅん
早坂 淳 氏



一度きりの人生です。幸せになりたいですね。自分らしく (人と違うかたちで) 生きることでも幸せですし、つながりの中で生かされることもまた幸せです。では「幸せ」を地域社会を単位にして考えてみたらどうでしょうか。そこで暮らす人が自分らしく生きるばらばら (多様性) にあふれる地域がいいのか、それともひとつにつながる (協働) 地域の方がいいのか。この問いに、対話と共感をテーマにして、一緒に納得のいく答えを探す講演会です。

■分科会

	テーマ
第1分科会	みんなで進める物語!多様なアクターがつながる地域活動
第2分科会	みんなでつくる安心のまち ~暮らしを支える地域の仕組み~
第3分科会	子どもの経験値を増やすコミュニティ・スクール ~大人になるまでにできること~
第4分科会	みんなの「顔が見える」地域をつくろう!
第5分科会	身近にある資源に気づく、地域と共に活かす ~流れを知り、視点を変える~

※ 基調講演・分科会のどちらかのみ参加も可能です。

※ 集会の様子は、後日編集後YouTubeにて配信予定です。

【主催】松本市・松本市教育委員会・松本市地域づくり研究連絡会

【主管】未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い実行委員会

内容・会場等の詳細は
ホームページから



参加申込方法

2月6日(金)までに、専用フォームからお申し込みください。

なお、必要事項(氏名/住所/電話番号/参加を希望する分科会/手話通訳・要約筆記・保育の要否)を記載の上、最寄りの地区公民館または集会事務局(中央公民館)へ電子メール、電話、FAX、窓口にてお申し込みいただくことも可能です。

事務局

松本市教育委員会 生涯学習課・中央公民館(Mウイング南棟2階)

〒390-0811 松本市中央1丁目18-1 TEL:0263-32-1132/FAX:0263-37-1153

E-mail:gakushu@city.matsumoto.lg.jp

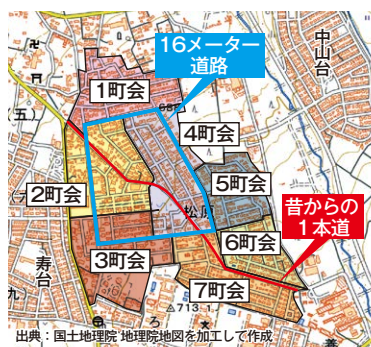
申込専用
フォーム



おこひる

近ごろ「えきしろ」と呼ばれるようになったエリアで働くようになって30年を超えた。それ以前もこの辺りで暮らしていた期間

も長かったから「えきしろ」の「原住民」と言ったところか▼90年代の区画整理では、道路が拡張され、松本パルコが増床し、Mウイングが建設されるなど大変革期であったが、イオンモール松本の開業とコロナ禍を経たこの一年の変化もめまぐるしい▼かつて東急インとして開業したスピカビルの閉館から始まり、松本パルコの撤退、井上本店のアイシテイ21への統合と街の灯りが次々と消えていった。この間南松本のイトーヨーカドーも撤退しているが、閉店ドミノのどさくさに紛れて大きな話題とはならなかったくらいだ▼街の新陳代謝と言えばそれまでだが、最近になってスピカビルでは建て替えの工事が始まり、旧松本パルコからは明かりが漏れるようになり、井上本店の建物は外資系ホテルへの転用が発表された。それぞれの施設がリニューアルオープンする日を心待ちにしたい。



松原地区町会地図

当初は寿地区白川町会の第10常会としてスタートした松原も、昭和60年代初頭には340戸を超す大常会となりました。昭和63年に寿地区松原町会が誕生し、平成15年に松原地区として独立しました。

松本で一番新しい地区として誕生！カラクリ時計台やガス灯をシンボルとした、東南部に位置するコンパクトな街

牛伏川の氾濫扇状地で、平安時代には大野田と呼ばれました。昭和53年に松原土地区画整理組合が発足し、寿と内田や中山にまたがる広い原野が「松原団地」として開発されました。団地開発として何度も報道されたためか、現在でも団地の付いた呼び方が聞かれます。

再発見!! まつもと地名がたり 15
原野と松林だったから松原 松原地区



昭和 50 年の松原

開発前は松林を切り開いた畑と、一筋の道が通っていただけでした。道の脇には数軒の家があるのみです。周辺の人びとは薪だけだけでなくマツタケなどを採りに入り、子どもたちにとっては格好の遊び場でもありました。現在90代の人が子どものころ、牛伏寺の縁日には道に縄を張り、通る人から通行料を取ってお祭の小遣いにしていたそうです。松原という名前を考える際にも単なる松の林ではなく、これらの大切な記憶を地区名として残しました。

地区名への想い

町会名などは数字で



モールでミュージックトイズが演奏

松原には元々の地名が無い
ため、地名のついた場所は多くありません。町会名は1、7町会で、常会にあたる班も1班という表記です。地区内の主要環状道路は幅員16mなので16メートル道路と呼ばれるています。街のシンボルで集いの場でもある「松原モール」など、地名関連の場所は少数です。

未来に向けて

独立前の地籍は松本市「寿豊丘」でした。「松原」にするか選択できたので、今も両地籍が併存しています。まだ新しい地区ですが、前地区町会連合会長の鈴木喜一郎さんは「自分たちでつくった街だからこそ、愛着も大きい。歴史はこれから育まれるのです」と話します。

松本平の野鳥たち



オナガガモ(2023年1月安曇野市御宝田の池 写真提供:信州野鳥の会)
カルガモよりやや小さなカモで、冬鳥として秋早くから全国の河川、湖沼に飛来。
雌・雄とも尾羽が長いが雄の尾羽が特に長い。
ハクチョウ飛来地として有名な御宝田(安曇野市)でも多くの数が確認できる。(左側が雄、右側が雌)

まつもと散歩

優しい光につつまれて
夢がたくさん
かないますように



(撮影：2026.1.1 大名町)